

日中のポジティブ・プライトネスの対照研究：日本語と中国語の談話分析を通して

平, 静
九州大学大学院比較社会文化学府

<https://doi.org/10.15017/4494642>

出版情報：比較社会文化研究. 20, pp.1-19, 2006-09-30. 九州大学大学院比較社会文化研究科
バージョン：
権利関係：

日中のポジティブ・ポライトネスの対照研究

—日本語と中国語の談話分析を通して—

平

静

1. はじめに

近年、日中間では経済面での交流が盛んになり、日本語学習者が増加している。中国語母語話者は、例えば、「いらっしゃる」や「申し上げる」という言葉が「敬語」であることを知っていても、母語の干渉で、「先生、あなたは北京にいらっしゃったことがありますか」(老师, 您去过北京吗?)といったような表現をしばしばする。中国語には、日本語の敬語のような言語形式が存在していないため(母 2002)、今まで中国における日本語教育は主に文法を中心に行われてきたという理由がある。日本語待遇表現の難しさは、語形そのものだけではなく、対人関係を考慮しながら場面に応じて使い分けなくてはならないところにある。そのため、多くの中国人日本語学習者は日本人との実際の会話場面で、その時の状況に応じてもっとも適切な表現を選ばなければいけないことに難しさを感じる。同じことを表現するのに、日本人母語話者とは異なっている言葉やセンテンスや言い方などを使用して、誤解されるケースが多いだろう。

それは文法の問題だけではなく、自分が学習した日本語の知識を実際の場面でより適切に使いこなせる会話能力の問題と関わってくるといえる。敬語を十分に使い分けられることができるからといって、円滑な人間関係が成立するとは限らない。ネウストプニーは、1968年に初めて「ポライトネス」という用語を使用し、敬語、言葉の他の表現、エチケット、思いやりなどを一つのフレームワークの中に据えて (Neustupny 1968)、「丁寧さ」の伝達は、普遍的なものであり、言語の理解のために不可欠な道具でもあると述べている(1978)。以後、ポライトネスという概念の重要性が着目されるに至っている。1970年代後半、Brown & Levinsonにより、広い範囲の現象がポライトネスの研究の領域に加えられた (Brown & Levinson 1978)。

日本語の敬語研究は近年欧米におけるポライトネス (politeness) 研究の影響を受けて、敬語を人間の言語行動の中に存在する普遍的な要素と位置づけた考察が行わ

れている。さらに、宇佐美 (2001) は「日本語のポライトネスは積極的丁寧さに移行しつつある」という報告を行った。

本稿はポライトネス理論の中のポジティブ・ポライトネスに着目し、日本語と中国語のポジティブ・ポライトネスにどんな共通点と相違点があるのかを考察するものである。

2. Brown & Levinson のポライトネス理論

Brown & Levinson (1987) の研究は、ポライトネスに関する理論としては最も代表的なものである。

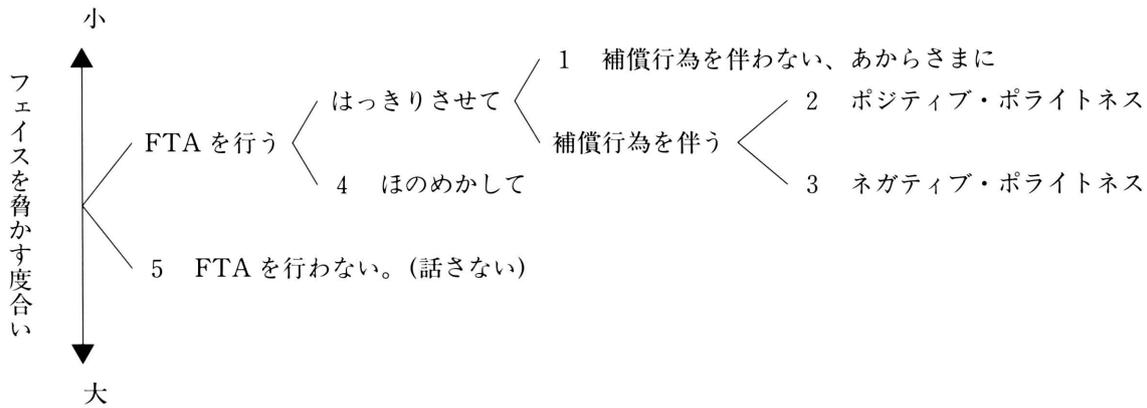
Brown & Levinson のポライトネス理論は、Goffman (1967) の面子行為理論に基づいてまとめられたものである。Goffman は、面子は社会の中で自分が得た正の社会価値であり、個人の自己表現であると論じる。Brown & Levinson は、この面子をポジティブ・フェイス (他人から賞賛、理解されたい) とネガティブ・フェイス (他人に邪魔されたくない、立ち入ってほしくない) の2種類に区分する。このフェイスを脅かさないように配慮して、円滑なコミュニケーションを維持していこうとする言語行動がポライトネスである。人間のコミュニケーションの中には、常に相手の面子を脅かす行為 FTA (Face Threatening Act) が含まれる。会話が成立するには少なくとも「話し手=S」と「聞き手=H」という二人の参加が必要である。Wx (FTAの重み) は、話し手と聞き手の社会的距離 D (Social Distance) と、聞き手の話し手に対する力 P (Power) および話し手の特定の行為によって Rx (聞き手が持つ負担の度合い) の3要素で表される。

Brown & Levinson は S と H をモデル人間 (model persons) として、S が H に対してとる態度を以下の図のようにまとめている¹。

S の H に対するポライトネス・ストラテジーの度合いは、図に示されているように、その度合いの低いものを 1 とすれば、以下のように解することができる。

1 Brown & Levinson (1987: 69) より引用した。日本語訳は松村 (2001: 16) を参照。

<図1>



- (1) 補償行為を伴わない、あからさまに
大胆に、「気配り行為」を気かけず、「直接表現」を用い、FTAを実行する。
- (2) ポジティブ・ポライトネス
親密な態度で、Hとの距離をおかないで積極的に「気配り行為」の伴った「直接表現」を用い、FTAを実行する。
- (3) ネガティブ・ポライトネス
尊厳な態度で、Hとの距離をおいて消極的に「気配り行為」の伴った「直接表現」を用い、FTAを実行する。
- (4) ほのめかして
「間接表現」を用い、FTAを実行する。
- (5) FTAを行わない
FTAを実行しない。話さない。

このようなことから分かるように相手へのポライトネスを無視した表現は「命令」であり、(1)が当然丁寧度の低いものとなる。一方、(5)は現実の状況ではかなりまれなケースであろうし、この場合、相手の存在を無視した、と受けとられる可能性をもちかねない。通常の状況では(2)、(3)のような態度がとられ、ここでは様々なポライトネス・ストラテジーが採用されることになる。Brown & Levinsonは、異なる社会では表面上異なるポライトネスを採っているかに見えるが、その真相には人類に普遍的な社会行動の原則があると述べる。彼らのポライトネス理論は、この普遍的な原則を提示しようとするものである。本稿では日中のポライトネス、主にポジティブ・ポライトネスを中心に対照比較を試みることにする。

3. 基本概念とデータ収集

私たちは日ごろから会話相手との関係によって、また相手の反応によって話し方を変えている。ポライトネス理論は日本でも広く受け入れられており、その研究も多

く行なわれてきた。しかし、日本では「敬語研究」も盛んなことから、「ポライトネス」の定義が「敬意」「丁寧さ」など曖昧になっているのも事実である。それで本論文では「談話のポライトネス—ポライトネスの理想談話構造」(宇佐美 2001)に倣い、Brown & Levinson (1987)が提唱するように「ポライトネス」の定義を「円滑な人間関係を確立・維持するためのストラテジー」とする。

また、宇佐美 (2001)によれば、この理論が様々な分野の研究者の注目を浴びてきたおもな理由として、彼らの理論が「言語的ポライトネス (linguistic politeness)」と銘うちながらも、言語形式だけにとらわれず、人間関係、社会的・心理的距離、ある行為が相手にかかる負荷度など、複雑に絡み合う社会的諸要因を考慮に入れ、それらの相互作用の効果としての言語行動における「ポライトネス」を、より包括的に取り扱っているからであるとしている。

本論が基本的な理論として利用するのは Brown & Levinson のポライトネス理論である。

3. 1 ポジティブ・ポライトネス

ポジティブ・ポライトネスは聞き手の「人に認められたい、仲間とみなされたい」というポジティブ・フェイスを満足させるもので、話者が聞き手に親密行動を取ることによって、いい気持ちにさせることである。話者と聞き手の関係が「親密」であるため、何か物を頼む場合も、低いレベルのポライトネス・ストラテジーで十分目的を達成することが出来る。例えば「あの、すみませんが(对不起, 请问)」などというネガティブ・フェイスに配慮した切り出し発話は必要ないのである。

ポジティブ・ポライトネスには三つの方法がある。

- (1) 相手との見解の一致を主張すること。お互い同じ基盤に立っていることを認識させることで、それを表すストラテジーとして相手の仕事や様相をほめたり、冗談を言ったりする。

(2) 話者と聞き手は協力関係にあること。聞き手が望んでいることを話者が考慮していることを示す。

(3) 聞き手の要望に応えることを表明する。

彼らはポジティブ・ポライトネスの主要ストラテジーを15挙げている。

本稿では Brown & Levinson が提唱したポジティブ・ポライトネスの各主要ストラテジーを基に、日中両言語においてポジティブ・ポライトネスのどのストラテジー使用が多くされ、どのように、どういった場面に使われ、司会者とゲストの様々な関係にどんな関わりがあるのか、様々な面から分析を試みる。そして、日中両言語において、具体的な会話場面の様々なストラテジーがそれぞれどのように現われるのか、両言語におけるポジティブ・ポライトネスにどんな異同点があるのかを明らかにしたい。

3. 2 データ収集

社会状況や人々の生活や考え方などの変化が人々の言語使用にも大きな影響を与えると考え、本研究に使われるデータは全部2003年以降に行われたインタビューである。内容としては、特別なテーマが強調されるものではない。しかし、データを採集するときインタビューに出ているゲストの性別、年齢、社会地位、司会者との親疎関係が様々であるように気を配った。

本研究は従来の代表的な手法であった筆記レベルのアンケート調査の方法ではなく、談話レベルでの考察を行う。さらに、小説などの素材より自然談話を分析資料として使うことが必要と考えた。実際の談話資料の収集はいろいろな人間関係や状況によってさまざまな面で困難が予想されるため、実際の談話に最も近いインタビュー番組が適切であると考え、司会者とゲストの形式での会話を録音し、それを文字化したデータを今回の研究に用いる分析資料とした。

本研究で採用されたデータは日本側がテレビのインタビュー番組『徹子の部屋』である。中国語のデータは朱軍が司会者とする『芸術人生』と楊瀾が司会者とする『楊瀾訪談』である。

この三つの番組を選んだ理由：

- ① 黒柳徹子と朱軍、楊瀾が三人とも経験を積んだ司会者である。
- ② この三つの番組はすべて同じように登場するゲストの年齢、性別、社会的地位が様々であるため、司会者とゲストとの位置関係も様々である。
- ③ この三人の司会者は各状況に応じて礼を失わない程度に相手をくつろがせながら会話をすすめている。
- ④ 選んだ談話はいずれも社会的身分に注意を払う必要

のある場面での会話である。また、インタビュー番組として、会話の主導者が存在しており、また発話の内容が一定の前提で対話する二人によって行なわれているものである。

このような会話のほうが、SとHが社会的身分や親疎を前もって認識して、いろんなポライトネス・ストラテジーを利用して、会話を成功させようとすると考えられる。

各インタビューから25分程度を録音して、日中各20人ずつ計40人のインタビューを文字化し、合計16時間40分の録音資料を得た。

本研究のデータ資料の文字化に関しては、ザトラウスキー (1993)、松村・因 (1998) を参考にして、以下のように文字化規則を定めた。

文字化規則：

- ① 漢字と仮名交じりで記述する。ただし、読み方が複数と考えられるもの、特に判断しにくいものについて、ひらがなで表記する。
- ② 笑い、身振りなどの非言語的行動は {笑い} のように {} の中に入れて表記する。
- ③ テレビのインタビュー番組なので、テレビに出ている写真について説明する部分の前に [写真] のように [] の中に入れて表記する。
- ④ 聞き取れない部分は (?) で示す。
- ⑤ ? 疑問表現の上昇イントネーションが認められる所。
- ⑥ 。 文末のイントネーションが認められ、文法的に文と認められる発話が終わる所。
- ⑦ 、 文が続く可能性がある所。

松村・因 (1998) は、実際日本語の会話におけるポライトネスを考察する際には、対話者間の相対的地位や社会的状況の読み取りが重要であるとする。話者はまず対話の相手に応じて自分の位置を定め、その位置を基準としてポライトネス・ストラテジーを変化させているという。そのため、今回の分析では、特に日本語の場合、ポライトネス・ストラテジーはポジティブ・ポライトネスとネガティブ・ポライトネスと一緒に複合形で現われると推定し、ポジティブ・ポライトネスを「下線」とネガティブ・ポライトネスを「網かけ」というふうに表記することにした。

⑧ 人の名前を表記する方法：

日本語のほうは人物の名前のローマ字表記の一文字目のアルファベットを使用し、表記する。中国人の名字は通常一文字であるから、中国語のほうは直接漢字を使って、名字で表記する。

4. 中国語におけるポジティブ・ポライトネス

中国語には人を評価する表現が多くあり、多くのケースでは、楽天的態度で聞き手に接し、協力関係があることを前提としている。まるで親族のように聞き手へ接近を試みるのが中国語のポジティブ・ポライトネスの基礎となっている。(kaidi Zhang 1992)

ここでは中国語のデータに基づいて先行研究の観点を検証しながら、中国語におけるポジティブ・ポライトネスの使用実態について分析していく。

本論に使用される会話の対話者の社会的地位（推定上の上下関係）、年齢、性別、親しさの度合いは表1のようである。

4. 1 Exaggerate(interest,approval,sympathy with H)

(聞き手への関心事、賛成、同情を誇張する)

これは語調、強勢などの音韻的素性を伴う誇張や過大表現を用い、相手の興味を引くストラテジーである。

4. 1. 1 誇張する言葉を使用する

(1) 杨：你说一个导演，因为20年前的一个梦想就把这
么多人都忽悠来忽悠去，跟你吃这么多的苦。这也是很大的一种奢侈。

(監督として、自分の20年前の夢を実現するために、こんなに多くの人たちが自分の言う通りに動いてくれて、あなたと一緒に苦労してくれたのは、本当に恵まれていますよね。) (会話17)

ここでは、Sが「忽悠来忽悠去（行かせたり来させたり）」-聞き手の権利の大きさを誇張する言葉の使用、「奢

表1 調査対象者リスト

朱 (41歳) 杨 (38歳)	対話者	ゲストの年齢	ゲストの性別	社会的地位	親しさ
会話1	朱⇔常香玉	81	女	下→上	疎
会話2	朱⇔秦怡	80	女	下→上	疎
会話3	朱⇔王晓棠	70代	女	下→上	少し親
会話4	朱⇔丁建华 乔榛	60代	女, 男	下→上	少し親
会話5	朱⇔翟俊杰	60代	男	下→上	疎
会話6	朱⇔余秋雨	59	男	下→上	疎
会話7	朱⇔张瑜 郭凯敏	50代	男 女	下→上	疎
会話8	朱⇔赵雅芝	49	女	=	疎
会話9	朱⇔田震	40代	女	=	疎
会話10	朱⇔崔永元	42	男	=	かなり親
会話11	朱⇔杨澜 白岩松	37 37	女 男	=	かなり親
会話12	朱⇔李亚鹏	34	男	上→下	疎
会話13	朱⇔徐静蕾	31	女	上→下	疎
会話14	杨⇔田壮壮	53	男	=	疎
会話15	杨⇔何冀平	52	女	=	疎
会話16	杨⇔赵宝刚	50	男	=	疎
会話17	杨⇔何平	48	男	=	疎
会話18	杨⇔刘欢	40	男	=	疎
会話19	杨⇔赵薇	30	女	上→下	疎
会話20	杨⇔章子怡	26	女	上→下	疎

侈(贅沢)―相手の状態を賞賛するのに誇張する言葉を用いる語彙的な特徴を加味した表現がとられる。

- (2) 王：那个时候麻雀是四害，我们都要上房子上面轰麻雀，我就站在上面练，差点摔下来，就为练伦巴。
(あの当時スズメが害鳥と見なされており、私たちはスズメを追い出すために屋根の上に行かなければいけなかったのです。私は屋根の上で立って、ルンバを練習しました。危なかったです。)

朱：站房顶上练伦巴，这个挺绝的。

(屋根の上でルンバを練習する？それはちょっと、想像も出来ません。)(会話3)

Hが力を尽くして、一生懸命仕事をしたことに対してSは「絶」という言葉の使用によって、「普通の人なら、絶対できない、私もそんなアイデアが想像できない」と自分の驚きと相手への敬意を示している。

4. 1. 2 ジョークと共用する

中国語では、SとHが年齢、地位がほぼ同じである場合、相手を褒める。或いはHへの共感を表すとき、SはHとの親しさを示すために、ジョークと賞賛する言葉を組み合わせて使用する場面がよく見られる。

- (3) 徐：昨天我们吃关机饭。

(昨日、撮影終了の打ち上げで、皆でご飯を食べに行きました。)

朱：吃到今天早晨5点？

(今日午前5時まで食べました？)

徐：差不多，4点半。

(そうですね、4時半まで。)

朱：你真认真，对工作。虽然是关机饭，都那么认真吃。

(あなたは本当にまじめですね、仕事に対して。ただの祝うためのご飯なのに、そんなにまじめに食べるなんて。)

徐：善始善终。

(私はいつも仕事の始めから終わりまできちんとしますよ。)(会話13)

まず、Hの仕事に対する態度はSが「认真(まじめ)」という語彙を使って自分の賞賛の意を表明するが、「ご飯を食べるのにいっぱい時間をかけた」ということにまた「认真(まじめ)」を使って、ジョークをいいながら、相手との距離を縮めていく努力をしている。

- (4) 杨：我和岩松是同一年的，他还比我早一年毕业。

(私は岩松と同じ年なのよ。彼は私より一年早く卒業しました。)

白：但是从做主持人的这个角度来说，她(杨)是前辈，我是看她的节目长大的。

(でも司会者になるのはやはり彼女の方がはやいです、先輩ですから。私は彼女の番組を見ながら、成長してきました。)(会話11)

「先輩」と言う言葉によって、Sは自分より相手のほうがこの業界に入ったのが早いということを示している。さらに、二人は同じ年なのに、「自分の成長に伴って、彼女の番組を見ました」と冗談を言うことによって、相手が司会者としての経験が深いということを言明している。

4. 1. 3 「褒め言葉+質問」

中国人はコミュニケーションをする際、聞き手との親密さを強調するために聞き手の私的領域に踏み込む発話が多い(母 2005)。人を褒める時には、相手に負担(恥ずかしい)を感じさせないと同時に、相手との親密さを強調するために「褒め+質問」という発話の形がよく使われている。

- (5) 朱：我觉得您这个头发特别有特色，是染的吗？

(あなたの髪の色は本当にきれいだと思います。染めましたか？)(会話3)

- (6) 朱：我觉得您是一个非常幸福的女人。因为您在事业上有那么好一个伴侣，在生活上也有一个非常好的伴侣。问题是在家里你是他的领导，是吗？

(あなたは本当に幸せな女の人だと思います。…お家であなたは彼をリードしているでしょう？)

(会話4)

- (7) 杨：我觉得这一年你的演技提高得蛮大的。你现在再去演一部电影…会不会觉得自己的把握度比过去大多了？

(この一年、あなたの演技はずいぶんうまくなってきました。…もっと自信がもてると思いますか？)(会話20)

このような形によって相手に「褒め言葉」に直面させることを避けることになり、さらに(6)では「お家では…？」のように聞き手のプライバシーを聞くことにより相手との関係の親しさを示す効果がある。

4. 2 Intensify interest to H (相手への興味を強調する)

このストラテジーでは話し手が持っている興味の対象を強調するような表現を用いて聞き手に接する。これに

より聞き手を自分のほうへ引き込み、会話がスムーズに行くことを試みる。相手にこれから自分の話すことに大いに興味を持たせ、自分が相手に近づくことにより、より一層相手を自分のもとにひきよせるのである。

(8) 楊：在影视圈，红男绿女，绯闻很多，但是大家对你和丁蕊的婚姻生活一直都非常赞赏。

(芸能界の男女関係は非常に複雑ですが、あなたと丁蕊さんの家庭がみんなに口々に賞賛されています。)

話し手は逆説助詞「但是(しかし)」によって、一般的な現象に対して、聞き手の状況が「予想外である」、「普通の状況と違う」という自分の考えを言明し、聞き手のことを褒めながら自分のほうにひきよせ、さらに後に聞きたい質問の伏線として、いい雰囲気づくりに努力している。

(9) 章：我总觉得我是一个意外。

(いつも自分の成功を意外に思っています。)

楊：怎么个意外呢？

(どうして意外に思うんですか?)

章：你看我这个过程，去舞蹈学校读书也不是我要去的。

((あなたは)私の成長過程を見るとわかりますよ。ダンス学校に習いに行ったことは自分で決めたことじゃなかったし。)

(9)では理由を説明する前に相手の注意を喚起すると同時に聞き手の同情を求め、さらに聞き手を自分のほうに引き寄せるために、「ただ見るだけで分かりますよ」という言葉を使用し、自分が陳述したのは客観的な事実だということを言明している。

(8)(9)から分かるように、中国語の動詞はテンスを表わす機能が弱いため、相手への興味を強調するときは英語のように (one uses the vivid present to tell a story that happened in the past) (B & L 1987: 106~107)ではなく、よく逆接表現を使ったり、相手の注意を喚起する言葉を使うことにより相手をひきよせることができる。

4. 3 Use in-group identity markers (メンバーである標識を用いる)

中国では、親族関係が重視されており、「親族のように聞き手への接近を試みる」のは、親族以外の人との親密関係を強調するポジティブ・ポライトネスである。その方法は親族呼称を親族以外の人に拡張することである。呼

称は、同じグループであることを示すアイデンティティ・マーカーの一つであると考えられる。李経偉(1999)は²、「(中国語の)呼称用語は、ポライトネスとして聞き手との距離を縮めたり、遠ざけたりすることができる。ポジティブ・ポライトネスとして、聞き手と平等或いは親しい関係を作る際用いられる」と指摘している。下記において、例を通して考察したい。

親族呼称：

中国語では聞き手との親密関係を強調するために、よく親族呼称が使われるが、話し手と聞き手との年齢、上下、親疎によって詳しく使い分けられている。

自分より年齢や地位が上の人に対して、本当の親族と区別するために、よく「名字+呼称」という形が使われている。

S下→H上：

(10) 朱：我们让这位小朋友给常奶奶朗诵一下这篇课文好不好。

(この子には常おばあさんのためにこの文章を読んでもらいましょう。)

(11) 朱：我觉得从年龄来讲的话，我叫戀王阿姨好像更亲切一些，戀同意吗？

(年齢から言うと、「王おばさん」と呼んだほうが親近感を感じられますが、よろしいですか。)

(12) 朱：我见到你们两个人的时候，好像除了乔大哥是平常一直都比较内敛，丁大姐基本上就没有停过，一直说话。

(あなた方二人と会うたびに、乔お兄さんはいつもあんまり話さないけれども、丁お姉さんは逆に止まることなく、ずっと喋っていますね。)

自分と同年代の人或いは自分より下の人に対しては、敬称や親族呼称をつけずに名前を呼ぶ傾向がある。ただし、中国人の名前はほとんど二文字か三文字から成っているため、相手の名前が三文字である場合はよく名字を省略して、名前だけを呼ぶ場合が多い。

(13) 楊：我和(白) 岩松是同一年的、…

(私は岩松と同じ年なんです。)

(14) 白：朱，我不知道杨澜是否也有这样的感觉、…

2 原文は中国語である。

(朱軍、楊瀾もこんなことを感じているかどうか分からないですが、) (会話11)

- (15) 朱：所以我想在这个时候，我更愿意用雅芝这样一个称呼，你觉得可以吗？
(この場合は、(あなたのことを)「雅芝」とよびたいのですが、よろしいですか？)
(会話8)

方言を使用する：

よく知られているように、中国は地理的に広大で、多様な方言が使われている。中国人は「故郷」という意識がとても強いので、昔から、中国人なら誰でも「老乡见老乡，两眼泪汪汪（同じ故郷である人と会えば、涙が出るほど嬉しい）」という諺を知っている。特定の方言を使うことによって話者同士が、同じ出身地であることを示し、或いは同じ出身地ではなくてもまるで同じ出身地であるかのようにみなし、お互いに親近感を感じながら、話をよりスムーズに進める効果があるといえる。

- (16) 楊：那时候你觉得谁最牛？ <北京方言>
(その時、一番凄いと思ったのは誰ですか？)
(会話16)

ここでは話し手—楊さんと聞き手二人とも北京出身で、方言を使うことによってお互いに親近感を感じている。

- (17) 朱：…你具体猜一下，觉得老娘给你多少压岁钱。
… <河南省方言>
(当ててみてください、お母さんからお年玉がいくもらえらると思いますか。)
翟：…我觉得是老娘的一片心，对儿女的一片心，…
(お母さんの気持ちだと思います、子供への気持ちです。)
(会話5)

朱さんは河南省出身ではないのだが、翟さんの出身地の方言を使うことによって、相手へ近づきたいという気持ちを相手に表明する効果があると考えられる。

4.4 Seek agreement (一致(同意)を求める)

聞き手と同じグループであることを保持するには、聞き手に同意できる点を見出すことが必要である。例えば天候、政治、時勢の話題などは聞き手との共通の話題となりやすく、このような話題は「安全トピック」と呼ばれる。次の例を見てみよう。

- (18) 田：他生下来45天的时候我回家，第一眼见他，我觉得怎么这么寒碜一个孩子呀。

(彼が生まれて、45日目に私がはじめて見たときは、本当に醜いと思いました。)

- 楊：刚生出来的孩子跟小老鼠似的。
(生まれたばかりの子供の見た目は鼠みたいですよ。)
(会話14)

聞き手は話し手の意見を賛成の意を表しながら、自分の経験から「皆同じです」と言うことによって、話し手を慰めている。

このような「安全トピック」を捜し、聞き手との一致を保持する以外に、話し手は、先行する発話の焦点となっている要素を復唱することにより、聞き手に対して同意を強調することができる。

- (19) 章：…但是他没有这个义务，任何一个人没有。
(しかし彼はこの義務を負う必要がない、誰もこんな義務を負う必要がない。)
楊：没有这个义务。你是什么时候认识到这一点的。
(義務を負う必要がない。いつからこういうことがお分かりになりましたか。)
(会話20)

- (20) 白：…12点的时候跟我的一些朋友去喝酒，为什么呢，喝完酒才会睡一会觉。
(深夜12時ごろ友達とよくお酒を飲みに行きました。お酒を飲んだ後、ちょっとだけ眠れるからです。)
楊：是为了麻醉自己吧。
(自分を麻痺させるためでしょう。)
白：对，那段日子我永远忘不了。
(そうです。あのころの日々は一生忘れません。)
(会話11)

以上の例から分かるように、中国語話者はお互いの持っている知識、話題を復唱することによってそれらを共有するように努めると同時に、ただの「復唱」に留まることなく、さらに相手の話への理解、同情を示す。時には質問や自分の意見まで言い出し、相手への情報要求を求めることもある。相手の話に興味を持っているという信号を出すことによって、話が進むように努力しているのである。

4.5 Avoid disagreement (意見の相違を避ける)

話し手は聞き手の意見や話に賛成しなくても、相手のフェイスを傷つけないように、できるだけ相手に反対する表現を避ける。(B & L 1987: 113~117)

相手と親しくない場合：

(21) 杨：你曾经说过希望自己在30岁的时候能够结婚，现在还这么想吗？

(30歳の時結婚してほしいって言いましたけど、今もそう思ってますか？)

赵：我还曾经说过25岁就结婚。

(私は25の時結婚するって言った事がありますけど。)

(会話19)

(22) 赵：我父母在20世纪30年代的上海生活过，他们那些老照片记录下了当时的情景，…

(両親は20世紀30年代の上海で暮らしたことがあります。当時の風景は全部写真で記録されています。)

杨：那时候家里还敢保留20世纪30年代的相片吗？

(そんな時代(文化革命)、まだ20世紀30年代の写真を手元に残しておられますか？)(会話16)

話し相手と親しくない場合は、その内容がたとえ違ったものであっても、婉曲な表現を用いて唐突に否定することを避け、相手のフェイスに傷つけないような表現を用いる。

相手と親しい場合：

(23) 朱：是不是因为他你才这么说？

(あなたがそういう理由は彼のためですか？)

崔：不是，这个你可以去请教专业的医生，…

(いいえ。いいえ。専門医に聞いたら、…)

(会話10)

(24) 白：你能说那是一个好节目吗？

(それがいい番組とはいえないでしょう。)

杨：当然是个好节目了。

(それは当然いい番組ですよ。)

白：0比4输得很惨，如果要是进一个球呢，节目还不错。

(0対4、惨敗ですよ。もしゴールしたらまだいいですけど。)

(会話11)

(23)(24)では、話し相手の意見に賛成できない場合、婉曲的な否定ではなく、直接的に自分の意見を述べたり、「いいえ」のように直接に反対を表したりすることが分かる。ここでは、相手が「自分」と親しい関係を持っているため、いくら率直に発言しても、二人の関係や、相手の自尊心を損なわない自信を持っているからだといえるだろう。

4.6 Presuppose / raise / assert common ground (聞き手と共通点があることを仮定したり、主張したりする)

このストラテジーでは、話し手がまるで聞き手の代弁者のように発言する。すなわち、聞き手の知識は話し手の知識でもあるかのように振る舞い、相手の気持ちになって発話するのである。例を見てみよう。

(25) 杨：在这个时候开音乐会对你有什么意义？40岁了，好像有一种里程碑的感觉。

(今音楽会を開くのは、あなたにとってどんな意味がありますか？40歳になって、里程標って感じがしますね。)

(会話18)

(25)の例ではSがHの代弁者として発言している。つまり、Hの体験はSの体験でもあるかのように振る舞い、相手の気持ちをよく理解して相手の立場に立っているような発話をしている。

(26) 白：我没有送过一支玫瑰，但是我每天晚上都争取回家吃饭。

((妻に)花をあげたことはないですが、毎日できるだけ家で晩御飯を食べますよ。)

朱：而且把工资都交给老婆，是吗？

(さらに給料は全部奥さんにあげるでしょう？)

(会話11)

ここでは、SとHがとても親しい友達で、SがすでにHの家庭のことや習慣を知っていて、Hの気持ちにできるだけ近づきたいという努力をしている。

(27) 杨：那个时候特别希望有人能够宠着自己，是吧？

(子供だった頃、自分のことを可愛がってくれる人がほしかったでしょう？)

(会話20)

ここでは、話し手が「聞き手の要望、期待している内容を推測している発話」であることがうかがえる。通常、(26)~(27)のように、否定疑問を用いた表現には、SがすでにHの要望、趣味を知っていて、Hの心情にできるだけ近づき、親しさを表わすという意図が含まれる。

このように相手の立場を取ることによって、personal-center switch という状況を起こす会話がよく見られる。

しかし、Kaidi Zhan (1992) は次のように指摘している。

「話し手が聞き手に近づこうとする時、“你说”を使うことによって、話の中心が話し手のみであったのが話し手と聞き手共に話の中心に転換することができる。この“你说”の用法は英語の you know とよく似ている。」³

3 原文は英語である。

例：咱们长年年亏损，你说，我怎么不能着急？

(Kaidi Zhan 1992)

(私たちのこの工場は毎年赤字なので、考えてみてよ、焦らないわけではないでしょう？)

話の中心を移動したり、相手の同情や賛成を求めたり、Hの興味を引き出したりする例は中国の普通の会話の中によく現われる。しかし、今回集めたデータにはそのような例を見出す事ができなかった。今後はこうした点に留意しながら、続けて研究していきたいと思う。

4.7 Joke (ジョークを言う)

冗談が通じる相手というのは共有の知識があることを前提にしている場合が多く、ジョークはこの意味では聞き手との共有知識を強調するには効果があるといえるだろう。

データからも分かるように、中国語の場合は友達同士や親しい関係を持つ人の間によくジョークが用いられる。

(28) 崔：我要是回去，就没人看《艺术人生》了。

(私が戻ったら、この『芸術人生』を見る人がいなくなりますよ。) (会話10)

(29) 杨：但是人不是说明吗，一看白岩松事情就大了，

(白岩松さんの顔をテレビで見たとき絶対何か大事件が起こったって皆言ったじゃない。)

(会話11)

時には(30)(31)のように、わざわざ尊敬語を使って、親しい人や自分より下の人に対してジョークを言う場合もある。

(30) 朱：您放心，我争取啊，这辈子不跟你站在一块。

(あなた様安心してください。あなたと同じ病気にかからないように…) (会話10)

(31) 杨：您太客气了。

(あなた様気を遣いすぎですよ。) (会話11)

ここでは聞き手と年齢、地位はほとんど同じである、“你”の尊敬形“您”を使用することによって、ちょっと皮肉な意味も含め、聞き手との関係が親しいことを皆に伝えようとしている。さらに、現場にユーモアに満ちた雰囲気を作り出す効果もある。

下の例からも分かるように、親しくない関係の人の間でもジョークが使われているが、相手に誤解されないように、話し手はかなり気を遣っている。ここでは「ジョーク+確認質問」という形式がよく使われている。

(32) 杨：比如你在食堂打饭的时候多给你一勺肉什么的，会吗？

(例えば、食堂で働いている女の人があなたにお肉とかちょっと多めにあげることなど、あるでしょう?) (会話16)

(33) 田：你还挺记仇的，是吧？

(あなたは本当に根に持つ人間だ、そうですね?) (会話14)

4.8 Include both S and H in the activity

(自分と相手と同じ行為に関わらせる)

中国語では話し手が聞き手との間に協力体制を期待する時に「咱们(我々)」がよく使われる。日本語の場合、主語は省略されることが多いので、通常の表現でも「私」や「あなた」などの個人的な関係を表わす主語が現われることは少ない。これに対して、中国語では「咱们(我々)」という人称代名詞が英語の「we」と同じように、SとHとを「包括した代名詞」として用いられることが多い。

(34) 田：对咱们唱歌的人来说，…

(我々歌手にとっては、…) (会話9)

話し手は聞き手(朱さん)が歌手でないことを知っただけで、いながら、「咱们」という言葉を使うことによって、協力を求め、友好な雰囲気作りに努めている。

(35) 朱：咱们把这个拿下去，先搁在这儿。

(我々は)これを下げましょう。とりあえず、ここに置きましょう。) (会話13)

話し手はその動作をしないが、自分を聞き手(動作主)の協力者と見、「咱们(我々)」を使うことによって、自分のアドバイスを和らげて伝えることができる。

中国語では相手との協力関係を求めるために、「你(あなた)」という第2人称代名詞も「我(私)」の代わりによく使われる。

(36) 刘：我开始有点顾忌呀，就是有了孩子以后，你就真的连开车速度都慢了。…就是说有点责任感了。

(子供を産んでから本当に考えことが多くなり、本当に、あなたが車を運転するスピードさえ遅くなりました。やっぱり責任感があるからです。) (会話18)

(37) 杨：你说作为一个导演，因为20年前的一个梦想，就把这么多人都忽悠来忽悠去，跟你吃这么多的苦。这也是一种很大的奢侈。

(監督として、自分の20年前の夢を実現するために、こんなに多くの人たちを呼んできて、あな

たと一緒に苦労させるのは、本当に贅沢ですよ
ね。)

何：…、所以我觉得你没有理由拍不好。

(だからあなたはいい映画を撮らないわけがな
いでしょう。) (会話17)

「你(あなた)」=話し手、つまり、話し手が「你(あなた)」という第二人称代名詞を使用することによって、聞き手自身(話し手)の立場に立つ。これは聞き手が「自分」のこととして理解してほしい、という協力関係づくりである。

4. 9 Give (or ask) reasons (理由を与える(尋ねる))

これはある理由付けを想定させることにより、Hに対し、Sの要求を受け入れるように協力を求める根拠を与えるというストラテジーである。

(38) 朱：自己有些内疚？

(ちょっと気がとがめるでしょう?)

徐：对。…

(そうです。) (会話13)

(39) 田：我坐那儿抽了一个半小时的烟才起来。不知道为什么。

(本当にわからなかった、どうして自分がずっとあそこに一時間半タバコを吸いながら座り込んだのか。)

杨：想什么？也不知道想什么？

(何を考えたの？やっぱり何も考えてなかったでしょう?)

田：也不知道想什么。…

(やっぱり何も考えてなかったです) (会話14)

中国語の場合は、(38)~(39)のように、「Hに対し、Sの要求を受け入れるように協力を求める根拠を与える」場合はよく「反語」が使われる。「反語」を使うことにより、間接表現を用いた質問となるが、これをHが受け入れれば、Sにとっては直接表現の断定になる。つまり、「反語表現」を使うことにより、Hの肯定的な返事を期待しながら、Hに解答を引き出す機会を与えることになり、SとHとの協力体制を確立することができる。

しかし、自分より上の人に対して、直接「反語」を使うことが失礼になる可能性があるため、収集されたデータからもわかるように、自分より年齢が上の人に対しては、質問も、よく「对吗(そうですか?)」「是不是(そうじゃない?)」など、語調を和らげる言葉を使用するのが一般的である。

4. 10 Give gift to H (goods, sympathy, understanding, cooperation)

(品物、共感、協力などを相手に贈る)

相手に同情を与える：

(40) 杨：每天天不亮就起来的起来压腿，这对孩子来说也是一件挺不容易的事。

(子供にとって毎朝夜明け前に起きてダンスを練習するのは確かに大変ですね。) (会話20)

(41) 杨：其实我们这个社会现实中根本就不允许这样的人活下去，…

(実際にこの社会でそんな人は生きられないです。)

赵：对对对。

(そうそうそう。)

杨：这其实是很可怜的。

(本当にかわいそうですね。) (会話19)

相手を励ます：

(42) 杨：不要太没志气。没完成，再熬十年。

(完璧にできなくても大丈夫ですよ。続けて頑張れば、絶対できます。) (会話11)

Brown & Levinson はポジティブ・ポライトネスを、話し手と聞き手との関係から3つのカテゴリーに分類している。一つは話し手が聞き手との距離をできるだけ近づけ、自分を相手と「共通の立場」におくこと、そして、もう一つは話し手と聞き手が「よき協力者」であるという観念を伝達すること、三つ目は「相手の欲求を満足させる」ことである。

以上の観察から分かるように、中国語では「話し手が聞き手との距離をできるだけ近づけ、自分を相手と「共通の立場」におく」というストラテジーがかなり多く使われ、相対的に「SとHがよき協力者である」というストラテジーの使用率が低く、中にはまったく見当たらないストラテジーもある。例えば、(互恵性に言及する)、(聞き手の欲求を理解し、関心を持っていることを示す)、(申し出や約束をする)、(楽観を示す)などのストラテジーは殆ど見られなかった。これはデータの範囲—インタビューという形式に限られていることに関係があると思われるが、ある程度中国人のポジティブ・ポライトネスの使用傾向を示しているとは言えるだろう。

5. 日本語におけるポジティブ・ポライトネス

日本語の待遇表現の研究は、従来、尊敬表現と謙讓表

現の研究に分類できると考えられるが、ここでは、尊敬、謙譲という概念とは別に、Brown & Levinson の理論の枠組みに従い、SのHに対する待遇における「距離の度合い」という概念を通して、Sが聞き手にとる表現がどのように変化するかを見ていくことにする。

本論に使用される会話の対話者の社会的地位（推定上の上下関係）、年齢、性別、親しさの度合いは下の表2のようである。

以下ではBrown & Levinsonが挙げているストラテジーに沿って、日本語が各ストラテジーにおいてどのような表現をとるかを見ていくことにする。

5. 1 Notice, attend to H (相手に関心を払う)

このストラテジーではSがHの状態に気を配り、HがSに気づいてほしいと思うことを的確に見極めてやらなければならない。

(1) K：それなら大丈夫ね、でもお宅は本当楽しそう

な家族ね、想像できる。それで、ひろみさんがお父さんで、子供たちが、自転車に乗ってどこかに行ったの？ (会話K)

SとHはいろいろHの家庭のことについて話したが、Hが自分の子供のことを一番大事にしていることにSが気づき、その情報に気を配って、その話題についてもっと詳しく知りたいという姿勢を相手に示している。

(2) K：お客様にお茶をだそうと思っております。あの、ここはですね、お台所もあってお見せしたいんですけど。徳光さんは日本のお茶がお好きだとお聞きしておりました、ちょっといただきましようか。

T：有難うございます。 (会話C)

日本語では、(1)ではHがSより年齢や地位もかなり下の人物なので、Sがその差を知りながら、くだけた表現

表2 調査対象者リスト

黒柳徹子 (72歳)	対話者	ゲストの年齢	ゲストの性別	社会的地位	親しさ
会話A	K⇔塩沢とき	80	女	下→上	親
会話B	K⇔EとN (江原真二郎と中原ひとみ)	69 70	男 女	=	親
会話C	K⇔T (徳光和夫)	64	男	不明	疎
会話D	K⇔A (綾小路きみまろ)	54	男	不明	疎
会話E	K⇔T (天満敦子)	50代	女	上→下	少し親
会話F	K⇔L (島田歌穂)	42	女	上→下	少し親
会話G	K⇔I (石丸謙二郎)	41	男	上→下	かなり親
会話H	K⇔T (鶴見辰吾)	40	男	上→下	疎
会話I	K⇔I (いとうまい子)	40	女	上→下	少し親
会話J	K⇔M (前田知洋)	40	男	上→下	疎
会話K	K⇔M (松本伊代)	40	女	上→下	疎
会話L	K⇔H (早見優)	39	女	上→下	親
会話M	K⇔H (橋本志穂)	38	女	上→下	疎
会話N	K⇔R (梨花)	32	女	上→下	疎
会話O	K⇔W (河口恭吾)	31	男	上→下	疎
会話P	K⇔W (河相我聞)	30	男	上→下	疎
会話Q	K⇔L (君島十和子)	30代	女	上→下	疎
会話R	K⇔Y (YOU)	30代	女	上→下	少し親
会話S	K⇔T (武田美保)	29	女	上→下	疎
会話T	K⇔H (ホリ)	28	男	上→下	疎
会話U	K⇔G (劇団ひとり)	28	男	上→下	疎

である「どっかに行ったの?」を使用した。例(2)の「徳光さんは日本のお茶がお好きだとお聞きしております」は話し手が相手の関心事や興味などに気を配って、「ちょっといただきますよ」と、「あなたのためにわざわざ準備しましたよ」という含みをもつ。SはHとの関係に気を配り、Hと親しくない関係を認識しながら、相手に近づこうと努める姿勢を示している。また、Hがマスコミの業界で高い地位を持つ事実を知りつつ、Hに失礼にならないように、ネガティブ・ポライトネスの「Give deference (謙遜表現によって敬意を払う)」も使い、「ポジティブ・ポライトネス+ネガティブ・ポライトネス」という複合的形をとっている。

5. 2 Exaggerate(interest, approval, sympathy with H)

(聞き手への関心事、賛成、同情を誇張する)

このストラテジーは音調、強勢などの音韻的素性を伴う誇張や過大表現を用い、相手の興味を引いたり、賞賛したりする。

<Sが自分より下の人に対する会話>

- (3) K: はじめにやりたいことは今出来てます?
 W: できてると思います。
 K: ただあなたは大橋巨泉さんじゃないけど、(?) みたいにしたと思ってるの?
 W: そうなんです。はい。
 K: えー? 今から考えてるの? すごいな。 (会話O)
- (4) K: あなた本当に美人ね、きれいな顔。 (会話N)
- (5) K: [写真] かわいい。これ長女?
 H: これは長女です。
 K: かわいい、お人形さんみたい。 (会話L)
- (6) T: もう今でもう万は超えたと思います、ひいた回数。
 K: そんな! (会話E)
- (7) K: 42歳でできちゃった結婚するって言われてるんですけど。
 T: そうなんですよ。しかも3人の占いさんから、
 K: えっ! 3人からも!
 T: はい。
 K: すごくありません! (会話I)

<Sが自分より上の人に対する会話>

- (8) M: で、さきほど、黒柳さんマジック面白いとおっしゃっていただいたんですけど、文化人の方とかインテリジェンスある方ほどマジック喜んでくださるんですよ。
 K: そうでしょうかね。 (会話J)
- (9) K: (髪型) 本当に素敵、本当に個性的ですもんね。
 S: カーブね、このカーブが難しいのよね。
 K: そうですね。片側じゃなくて、両側ですからね。同様になっていてすごいですね。 (会話A)
- (10) S: 30で舌癌、57で乳癌、77で乳癌です。
 K: 77で! あらら! (会話A)

上記の会話例から、Sが自分より下の人に対してよく常体を使って、相手の興味を引いたり、褒めたりしている一方で、自分より上の人に対する対話の中で、よく敬語を使うのが観察できる。会話8では、話者KとSとは親しい関係である事が予想されるのだが、SがKより年上のため、相手に失礼を感じさせないように、Kが丁寧体を使っている。

(6)(7)のように、年下の人や地位が自分より下の人に対して、「そんな!」「え!」など音調、強勢などの音韻的素性を使い、誇張を表わす表現がよく見られるが、年齢や地位が相対的に高い人に対してそれが見られなかった。ただし、とても親しい関係を持つ人(塩沢さん)の病氣に対して嘆く気持ちを表現するために、(10)のように一回のみ「あらら」を使用している。

それに対して、中国語には「褒め+相手のプライバシーに関する質問」という形の対話がよく観察される。中国人はコミュニケーションをする際、聞き手との親密さを強調するために聞き手の私的領域に踏み込む発話が多いのに対して日本語の場合はそのような発話がほとんど見当たらないのである。これは中国人は話し相手とお互いの私生活の情報を共有することによって親しさを示すのに対して、日本人はより自分の私的領域を守ることを重視しているといえるだろう。

5. 3 Intensify interest to H

(相手への興味を強調する)

このストラテジーは、話し手が持っている興味の対象を強調するような表現を用いて聞き手に接することである。これにより聞き手を自分のほうへ引き込み、会話をスムーズにすることを試みる。相手にこれから自分の話

すことに大いに興味を持たせ、自分が相手に近づくことにより、より一層相手を自分のもとにひきよせるのである。

- (11) K: お元気とは思っていましたが、あの、本当に充実していらっしゃいますね、精神が。
S: 精神は充実していますかもしれませんね。ただ、黒柳さん、私癌になりましたの。

(会話A)

- (12) K: あ、そうなの。でも子供たちも慣れてて、
H: 実家、でも、原因がはっきりしたんですよ。黒柳さん、(父が)来る度に内緒に飴をあげてたの。だから来ると「じじ、じじ」とか言って娘たち喜ぶんですけど、でもみてる特別遊んでるわけでもないし、…飴だったんですよ。

(会話L)

日本語では直接対面して話している時は相手の名前を呼ばないが、ここでは、相手の興味を引き、自分が次から言う言葉に興味を持たせたい時、「黒柳さん」というような、相手の名前をわざわざ呼ぶことによって、自分の発話を強調したり、相手の注意を喚起する効果があると思われる。

(11)(12)において、相手の名前を呼ぶことより、「聞き手を自分のほうへ引き込み、会話がスムーズに行く」「相手にこれから自分の話すことに大いに興味を持たせる」という効果が期待される。ただし、司会者であるKが自分より下の人に常体を使ったり、上の人に失礼にならないように丁寧体、尊敬語を使ったりしている点に注意しなければならない。

5. 4 Use in-group identity markers

(メンバーである標識を用いる)

これは親愛の念をこめた呼称、例えば「My son」「お前」などを用いることにより、「(in-group)同じグループ」のメンバーであることを強調し、暗にSである自分をHである相手と同じ集団におくストラテジーである。日本語では夫婦間における「お前、あなた」或いは、友人間におけるニックネーム「～ちゃん」などがこれにあたると思われる。例えば以下の例を見てみたい。

- (13) T: …、その点、かおるちゃんはどっちかという
と、ちょっとなんか、腹がすわってるところなんで、なんか私たち大変なところになるらしいわよ、みたいなこと言ってたんです、当初から。

K: まあ、そんなことみたいな、

T: えー、

K: ですからあなたのご結婚が決まって、去年の10月なされた時に杉田かおるさんはまだなんで、ちょっとかわいそうというか、気の毒というか、

T: …ただ何しろ、その「金八先生」の時から、まあ、いろいろ、ほかの作品でも夫婦役とか、

K: 多かったですよ、杉田さんと。(会話K)

(13)のように、「杉田かおる」という人物に対して、TとKがそれぞれ「かおるちゃん」と「杉田さん」と呼んでいる。この呼称から、TとKと「杉田かおる」という人物へのそれぞれの「距離(親しさ)」がはっきり示されている。

同様に、会話(14)では、Sが自分よりかなり年下の話し相手に親しさを示し、相手のことを可愛がっている気持ちを表すために、相手の名字「河相」ではなく、名前「我聞」で呼んでいる。

- (14) K: 我聞さんは食事とか、なんかするのがやっばり、あの上手というか、手早いというか、中学校の時からもう一人暮らしをしてたとおっしゃいましたっけ。(会話P)

- (15) K: でも、あれなんですよ。あなたが、野口五郎さんと三井ゆりさんのご結婚、あなたがなんか、
H: キューピットでなんかいただいでるんですけど、実はゆっちゃんともとても仲がよかったんですね。(会話M)

さらに、下の例⁴を見てみよう。

- (16) 福岡さん、来週までにレポートを提出してください。

- (17) 花子さん、来週までにレポートをよろしく頼むよ。

- (18) 花子ちゃん、来週までにレポートをよろしくね。

(16)はごく普通の表現であるが、(17)のように「花子さん」というニックネームが用いられれば、(16)の「提出してください」が「よろしく頼むよ」と変わり、さらに福岡さんの名前が花子であるとし、これが(18)のように、「花子ちゃん」と変化すると、あとの表現はさらにくだけたものになる。このように日本語ではアイデンティティ・マーカがポライトネスに重要な役割を演じることがわかる。

5. 5 Seek agreement (一致(同意)を求める)

Hとの「common ground (同じグループ)」であるこ

4 (16)(17)(18)は筆者の作例である。

とを保持するには、Hに同意できる点を見出す必要がある。例えば、天候、時勢の話題などはHとの共通の話題となりやすく、このような話題は「safe topic(安全話題)」(B & L 1987:112) と呼ばれる。Brown & Levinsonが述べたように、このような安全話題をさがし、Hとの「common ground」を保持する以外に、Sは先行する発話の焦点となっている要素を復唱する事により、Hに対して同意を強調することもできる。例えば、

(19) K: 江原さんはこんなにしっかりしてた方とは思ってらっしゃいました?

E: いや、最初から思っていましたよ、これは。

K: やっぱり分かりました。 (会話B)

(20) H: そうですね。だからその時はそういうものまねできたでしょうけど、今全然、

K: やってないみたいです。

H: やってないみたいです。 (会話T)

このように、「先行する発話の焦点となっている要素を復唱する」ことは、日本語では年下に対しても、年上の人に対してもよく見られる。

中国語のデータから分かるように、中国語話者はお互いの持っている知識、話題を復唱することによってそれを共有するように努めると同時に、ただの「復唱」に留まることなく、さらに相手の話への理解、同情を示す。(18)のように、多くの場合は質問や自分の意見まで言い出し、相手への情報要求を求めるのである。中国語と違って、日本語では相手の意見に賛成したり、復唱したりすることがよく見られる一方、相手の意見に賛成したり、復唱したりする前によく「そうですね」「そうですよ」「本当よね」などが使われている。

(21) S: あら、本当だ、24年前に、

K: そうですよ。まあバラエティに出てらっしゃらなくて、…

S: [写真] これ2度目です

K: そうそう。これ2度目です。 (会話A)

(22) T: だからその時はそういう物まねできたんでしょうけど、今は全然、

K: やってないみたいです。

H: やってないみたいです。

K: でも中学校に上がるとその子もういなくなったんで、中学校、高校からまた、あの、あなた一番上手でまたみんなのものまねとか、

H: そうですね。やっぱり学校だと、先生の真似

とかはやっぱりやってみましたね。 (会話T)

(23) K: …、これびっくりしましたね。

T: 私もちょっと嬉しかったです、なんか。

(会話S)

中国人はコミュニケーションをする際、聞き手との親密さを強調するために聞き手の私的領域に踏み込む発話が多く使う(母, 2005)。これに対して、日本人は相手の意見に賛成の意を表したり、「も」をつかって、同調を表したりする表現が多いといえるだろう。

5. 6 Avoid disagreement (意見の相違を避ける)

これは相手に同調するために意見の相違を避けるストラテジーである。

(24) K: あとどのぐらい、何年あるの?

Y: いえいえ、もう、ね、私、今年の8月で41なんです。

K: あ、そうですか。 (会話I)

(25) T: でも、もう招きいただけないなと思って、アツユキもクミちゃんもでているなど、そんなこと思いながらよだれをたらしました。

K: いえいえ。アツユキさんもフジテレビのアナウンサーの時から出ていたんですよ。…だから、あなたも出られるんですかね? テレビ局とか。

(会話C)

(26) J: えー、もう富士山ですね、自分の応接間から窓に全部富士山が入るように、…

K: でもよくこの間に大きい家は建ちませんでした? お宅の外。

J: そうですね。ちょっとこっちが高台になってますので、高くなっていますので、

K: でも高くなって建てるのはわりと大きいものが建っちゃえば、もうちょっと建っちゃえば、みえないでしょうよね、これが。

J: そうですね。だから結構こういうところ探したんですね。まあ、縁があって、

(会話D)

日本語では、以上のように、その内容や考え方がたとえ間違ったものであっても、できるだけ婉曲な表現を用い、唐突に否定する事を避けるというこのストラテジーがよく用いられる。

5. 7 Presuppose / raise / assert common ground (聞き手と共通点があることを仮定したり、主張したりする)

- (27) M: …、で、入れたまま火をつけたから、火がまわっちゃって、パツとなって、
K: びっくりしたでしょう。
M: びっくりしました。(会話K)
- (28) K: それ100本をやるとすごい時間になるですけど。一回5本ぐらいコピーはできるけど、一日100本で奥様大変だったでしょう、これ。
J: もう寝ないでやりましたね。あの、夜中もやっただと思います。(会話D)

- (29) K: 久しぶりの塩沢さんですから、この頭を見ましたら、これは上手な方がやってらっしゃるんでしょうね。ご自分の毛なんでしょう、本物の髪。
S: もちろん、黒柳さんと一緒にすべて本物の髪ですよ。(会話A)

このストラテジーでは、SがあたかもHの代弁者のように発言する。すなわち聞き手の知識は話し手の知識でもあるかのように振る舞い、相手の立場に立って発話することになる。これは相手の立場をとることにより、personal-center-switch という情況をおこすストラテジーである。日本語では、中国語の“你说”、英語のような“you know”などの表現を伴うことは少ないが、(27)(28)(29)のような場合は、「でしょう」という表現に「そういうことは、私にはよく分かります」という意味が含まれている。さらに、(30)(31)の「～じゃないですか」は、SがHの要望、期待している内容を推測しての発話であることがうかがえる。通常、否定疑問を用いた表現は、SがすでにHの状況、要望、知識、趣味などを知っていて、Hの心情にできるだけ近づこうという意図を表わすにはさらに効果的だといえるだろう。

- (30) T: 徹子の部屋っていうのは別格じゃないですか。(会話C)
- (31) H: …、あと僕でも大学生の時に六本木センターで、あの、(?)というところがあるんじゃないですか。
K: ええ。
H: 六本木センターでバイトしたんです、僕。(会話T)

5. 8 Joke (ジョークを言う)

- (32) K: そもそも皆様がこんなところに住みたいなという感じがどうかと思いますので、皆で相談し

- て、こういうふうにしました。
T: 結構はでな格好ですみません。
K: {笑}
T: ハンバーガーショップのベテラン店員みたいですけど。
K: 私はですね、徳光さんがとても面白いことをおっしゃっているけど。
T: いいえ、そんなこと、
K: そういうデザインがお好きなんですか。(会話C)

- (33) K: でもその間にも大学をおでになっていらっしゃったんですね。
J: そうなんですね。
K: あのバイトしながら、…びっくりしました。拓殖大学の貿易学科、
J: ええ。そうですね。あの、学歴詐称じゃございません。あの、きちんと卒業書をもらってるから。
K: でもすごいですね、貿易学科。やっぱりそういうところなんか、(会話D)

- (34) K: カミラさんも来るかもしれない。
M: {笑} じゃ、婚約指輪を消さないといけませんね。
K: それは面白いですね。婚約指輪をおもらいになりますかって言って、それ消すなんかいいじゃないですかね。そしたら消しちゃったらあなたもうだめ、{笑}そんなこといったら大変な事、
T: いいえ、いいえ、ちょっとマジックですから、出しますので、消した後、多分国内から出れないと思いますね。(会話J)

以上の例から分かるように、ジョークが通じる相手というのはお互いに共有の知識があることを前提にしている場合が多く、ジョークを用いることでSがHとの共有知識を強調する効果がある。さらに、(32)~(34)はすべて親しくない相手との間で行なった会話であり、二人の共有知識を利用し、ジョークを通じて空気を和らげる効果があるといえるだろう。

(33)のように、中国語にもよく観察されることだが、日本語には相手にわざわざ尊敬語を使用することによって、ユーモアの雰囲気を作り出すという用法もある。

5. 9 Offer, promise (申し出や約束をする)

SがHに申し出や約束をする場合、相手のフェイスを

脅かす可能性を和らげ、Hが協力してくれるような表現を試みる。(Sが相手のフェイスを脅かす可能性を和らげ、自分の要求を実現できるように、協力してくれるように心がけるような表現を試みる。申し出や約束がこれにあたると思う。)日本語でははっきりした内容、期日を表明するより、「そのうち、近々、今度」などという曖昧な表現を用いることが多い。これによってHに親近感を与えるという目的は達せられるわけであり、その意味では、この曖昧な表現は「相手の協力」を求めるために一つの効果ある方策となるのである。例を見てみよう。

(35) K: (あなた) 42歳でできちゃった結婚するって言われてるんですって。

Y: そうなんですよ。しかも3人の占いさんから、...

K: でも、まあ、その2年の間にもし本当にできちゃった結婚だったら、いらしてね、こちらに。

Y: そうですよ、その際には。 (会話I)

(36) G: 最近はなんか家で観葉植物とか盆栽とかはじめて、あと料理始めたとか、なんか一人で楽しむ時間が増えましたね。

K: アイホンもその一つですか。

...

G: 今日黒柳さん「持ってきてくれ」って言ったんですよ、...

...

K: でもあの盆栽のほうは、

G: あ、今度盆栽持ってきます。 (会話U)

5. 10 Be optimistic (楽観を示す)

これはSにとってSが望んでいることをHも同様に望んでいるであろうと想定した表現を用いる戦略である。(B&L 1987: 126)

(37) You'll lend me your lawnmower for the weekend, won't you. (B&L 1987: 126)

(37)はHもそうすることに当然同意してくれるであろうという前提のもとでの表現であり、これはHの心情をS本位に楽観的に捉えた表現である。(38)は日本語に訳すと、

(37) 今週の週末、(あなたは) もちろん芝刈り機を貸してくれるでしょうね。

この場合、S本位の表現は、日本語で「当然～してもいいでしょうね」「もちろん～してくれるでしょうね」などの表現に当てはまると思われるが、今回収集したデータの中では、このような例は非常に少なかった。

(38) K: で、これからいよいよ (マジックを) 見せていただくわけですね。 (会話J)

これはSが自分の要求に対して、Hが必ず応えてしてくれると予測している表現である。

しかし、ここでは、Kが年下の相手に対しても、頼む時にやはり敬語を使用し、さらに語調を和らげるために「ね」を使っている。

日本人は人に頼む時や恩恵を受ける時、地位に関係なく、できるだけ相手に押し付けるような表現を避け、「～よろしいですか」「～いただけますか」などの婉曲な質問形式を多く用いるとすることができるだろう。

5. 11 Include both S and H in the activity

(自分と相手を同じ行為に関わらせる)

中国語では「我(私)」「你(あなた)」など、主語を省略する事が少ない。また、相手との協力関係を築くために「咱们(私たち)」という人称代名詞が英語の「we」と同じように、SとHとを「包括した代名詞」として用いられることも多い。これに対して、日本語の場合は、主語は省略されることが多いので、通常の表現でも「私」や「あなた」などの個人的な関係を表わす主語が現われることは少ない。ほとんど動詞の変化によって相手との協力関係を示す。例えば、

(39) ちょっと見てみましょうか。((咱们(我々)) 一起来看看吧) (会話M)

(40) ご飯食べに行こう。((咱们) 去吃饭吧)

(41) 一緒にご飯食べに行かないですか。((你(あなた)) 不一起去吃饭吗?)

このような場合、中国語と日本語とではかなり違いが見えてくる。中国語では主に主語の変化によって、相手との関係を区別するのにに対して、日本語では動詞の変化によって、いろいろな感情を表わしたり、相手との上下、親疎関係を示したりしている。ここでは「～しよう」などの表現によって、SとHとの協力が得られることを期待している。次の例を考えてみよう。

(42) K: ...、当時のVTRをみんなで見てみましょう。(会話R)

ここに見られるように「みんな」という語彙を主語として用いることが、よりSとH(観客)との一体化を創り出す。この場合、英語や中国語などでは「we」、「我们」という人称代名詞がSとHを「包括した代名詞」として用いられることが多いのに対し、日本語では「我々」という人称代名詞を英語や中国語と同じ意味で用いることは少ないといえる。

(43) 我々で見てみましょう。

(42)(43)は共に「～しよう」という表現が、自分と相手を含めての一体化を形成するという点では同じである。しかし人称の問題になると、(43)では「我々」があるために、かえって、他のグループとの分離を意識した表現となっている。これは「みんな」と「我々」という語彙を用いた以下の表現を比較した場合、

(44) 我々だけで見てみましょう。

は可能な表現であるが、

(45) *みんなだけで見てみましょう。

は不適格な表現であることにより、日本語の場合、SとH(複数を含む)を一体化させ、協力体制を望む場合は、「我々」よりは、「みんな」という語彙を用いた表現のほうが効果が上がると言えるだろう。

5. 12 Give gift to H(goods, sympathy, understanding, cooperation)

(品物、共感、協力などを相手に贈る)

これはSがHのポジティブ・フェイスを満足させるために、相手にも、同情、理解、協力などを与える方策である。

相手に同情を与える：

(46) L：今日のこのコンサートを終えたら、明日東京に帰って言うその朝に(母が)なくなってしまっ
て、

...

K：つらいですね。 (会話F)

(47) K：もう本当に泣きたかったですね。もうそのときの母、親の気持ちというのはどういうものなのか思い出しても涙出ちゃうから、本当に辛かったろうと思いますよね。何歳だったでしたっけ、息子さん。

N：26歳だったです。 (会話B)

以上、日本語におけるポジティブ・ポライトネスの各ストラテジーの分析から分かるように、「日本語のスタイルは、身分差や場面という初期条件によって固定化させるものではなく、話者同士が共同で会話を成功させ、より親密な関係を目指してダイナミックに交代している」、さらに「この交代は無制限に起こるわけではなく、話者同士が互いの上下関係を意識した上で、相手のことを考慮しながら起こっている」(松村・因1998)。特にポジティブ・ポライトネスの各ストラテジーでは、よく「ポジティブ・ポライトネス+ネガティブ・ポライトネス(敬意を払う)」という複合形式が観察される。

6. まとめ

観察・分析を通して中国語のポジティブ・ポライトネスとネガティブ・ポライトネスはBrown & Levinsonが述べているように、英語と同じくはっきり分けられていることが分かった。一方、日本語は文脈依存性の極めて高い言語で、社会的、慣習的ルールに従い、ポライトネス・ストラテジーはポジティブ・ポライトネスとネガティブ・ポライトネスが一緒になって複合形で現われることが明らかになった。

従来多くの先行研究では、中国語はポジティブ・ポライトネス型言語(母 2001)であり、日本語は一般的にネガティブ・ポライトネス型の言語だと言われてきた(Brown & Levinson 1987)。しかし実際の観察・分析から明らかになったように、日中両言語では相手に親しさを示すポジティブ・ポライトネスでFTAを解消し、距離を縮めるような言葉遣いがよく使われている。

さらに、Brown & Levinsonがポジティブ・ポライトネスのストラテジーを15挙げているが、今回の考察によって、中国語のデータから10個のストラテジーが、一方日本語のデータから12個のストラテジーが観察された。これによってある程度、宇佐美(2001)の「日本語のポライトネスは積極的丁寧さに移行しつつある」という報告を確認することができた。

7. おわりに

本研究では、日中両言語のポライトネスの使用実態を明らかにするだけでなく、ポライトネスの「フェイス」という概念を適用して、各ストラテジーにおいて、話し手と聞き手がお互いの相手に対して言語的、心理的にどのような配慮をしているかを考察してきた。これは今まで語用論研究として小説や作例を対象としてきたポライトネスにおける日中対照研究とは、大きく異なる。

今回は、実際の談話資料の収集は人間関係や状況によってさまざまな面で困難が予想されたため、実際の談話に最も近いインタビュー番組が適切であると考え、日中両国のインタビュー番組を文字化し、今回の研究に用いる分析資料として、Brown & Levinsonが提唱したポライトネスの各ストラテジーの用法、特徴、及び日中両言語の異同点を分析してきた。しかし、「インタビュー」という公的な場面の制限により、日中両言語において、観察できなかったストラテジーもあった。今後の研究ではできるだけ様々な場面において行なわれた談話を収集し、より全面的に日中両言語におけるポライトネスの異

同点を分析することが今後の重要な課題の一つである。

参考文献

- Brown, Penelope and Levinson, Stephen C. (1987) *Politeness : Some universals in language usage*, Cambridge University Press
- 松村瑞子・因京子(1997)「日本語の談話におけるスタイル交代の実態とその効果」『言語科学』33 九州大学言語文化部言語研究会
- 林四郎・南不二男編(1974)『敬語講座⑧世界の敬語』明治書院
- 母育新(2001)「待遇行動における日本人と中国人の比較—ポライトネスの視点からの考察」『麗澤大学紀要』第73巻
- 母育新(2002)「ポジティブ・ポライトネスから見た日中の比較」『麗澤学際ジャーナル』第10巻第1号 麗澤大学経済学会
- 蒲谷宏・坂本恵(1991)「待遇表現教育の構想」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』3号
- 楊立明, 郭春貴, 孟広学(2002)『中国語で学ぶ中国文化基礎知識』東方書店
- 張黎, 佐藤晴彦, 内田慶市(1998)『中国語表現のポイント99』好文出版
- 塚本慶一(2003)『中国語通訳への道』大修館書店
- 奥山和子(1999)「ポライトネス視点による会話の機能的解釈」『神戸大学留学生センター紀要』6号 神戸大学留学生センター
- 李経緯(1999)『称呼語的語用論分析』軍事文出版社
- Kaidi Zhan(1992) “The strategies politeness in the Chinese language” The Regents of the University of California
- 宇佐美まゆみ(1997)「ポライトネス理論の展開：ディスコース・ポライトネスという捉え方」東京外国語大学 『日本語研究年報』, 145-59
- 宇佐美まゆみ(2001)「談話のポライトネス—ポライトネスの談話構造構想」第7回国立国語研究所シンポジウム 第4専門部会, 9-54
- 宇佐美まゆみ(200)「ポライトネスから見た<敬意表現>」『月刊言語』11(2001)
- 辻村敏樹(1989)「待遇表現と日本語教育」『日本語教育』69
- 彭国躍(1999)『近代中国語の敬語システム—「陰陽」文化認知モデル』白帝社
- 生田少子「ポライトネスの理論」『月刊言語』5号(1997)
- 坂本俊生(2001)「現代社会関係と敬語の可能性」『月刊言語』11(2001)
- 蒲谷宏, 川口義一, 坂本恵(1998)『敬語表現』大修館書店
- 泉子・K・ナイメード(1992)『会話分析』くろしお出版
- 荻野綱男(1986)『日本人と中国人の敬語行動の対照言語学的研究』文部省科学研究費補助金研究報告書
- 笹川洋子(1999)『アジア社会における依頼のポライトネス』『親和国文』34号
- 鷹野由紀子(2005)『現代中国語の要求表現—その使い分けに関する考察』関西大学「中国文学会紀要」第26号
- グループ・ジャマシイ編著(1998)『日本語文型辞典』くろしお出版
- 松岡弘 監修(2000)『日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワック
- 陳原(1981)『言葉と社会生活』凱風社
- 東照二(1997)『社会言語入門』研究者出版社
- 津田早苗(1999)『談話分析と文化比較』リーベル出版
- 好井裕明 他(1999)『会話分析への招待』世界思想社
- 菊地康人(1989)「待遇表現—敬語を中心に」『講座日本語と日本語教育』明治書院
- 江口英子(2002)「敬意表現」を考える—ポライトネス・日本文化の維持・日本語教育』『京都精華大学紀要』23号

A contrastive analysis between Japanese and Chinese positive politeness
—Based on Japanese and Chinese discourse analysis—

HEI SEI

In order to create a clear picture about the usage of the Japanese and Chinese positive politeness strategies for smoother communication in both languages, an interview program on TV was compared based on the politeness theory developed by Brown and Levinson. The findings are,

Like English the structure of positive and negative politeness in Chinese is clearly divided into two categories, as mentioned in previous well-known works by Brown and Levinson. On the other hand, this research shows that in Japanese the positive and negative politeness strategies are combined into a complex politeness strategy.

Also based on the ideas developed by Usami (2001) it is thought that politeness in Japanese changes to positive politeness.